

(財) 地震予知総合研究振興会
長岡平野西縁断層帯の活動性評価に関する研究委員会 (第1回)

概要報告

1. 日 時 平成22年3月10日(水) 13:30~17:00

2. 出席者

主査	東北大学	名誉教授	長谷川 昭
委員	東京大学	名誉教授	阿部 勝征
	長岡技術科学大学	教授	大塚 悟
	防災科学技術研究所		岡田 義光
	東京大学地震研究所	教授	金沢 敏彦
	日本大学総合科学研究所	教授	工藤 一嘉
	東京大学地震研究所	教授	瀬藤 一起
	東京大学地震研究所	准教授	酒井 慎一
	名古屋大学	教授	鷲谷 威
	東京大学地震研究所	教授	佐藤 比呂志
	東京大学地震研究所	教授	平田 直
	防災科学技術研究所		堀内 茂木
	顧問	東北大学	名誉教授
	(財) 地震予知総合研究振興会会長		高木 章雄
事務局	(財) 地震予知総合研究振興会		

(敬称略)

3. 議第

- (1) 委員会の主旨について
- (2) 今後の検討計画
- (3) 長岡平野西縁断層帯の地質調査
- (4) 緊急地震速報の精度と課題

4. 委員会の状況

開催に先立ち、各委員の自己紹介が実施された。まず事務局より委員会が設置された主旨について説明がなされた後、今後の検討計画の紹介が行われた。その後、本委員会で対象とする長岡平野西縁断層帯周辺の地質構造について、当社の地質調査結果に基づき議論がなされた。さらに、話題提供として緊急地震速報システムについて紹介が行われた。

(1) 委員会の主旨について

長岡平野西縁断層帯の周辺地域に地震計を新たに設置し、その観測記録を蓄積しながら活動性の評価を長期的に実施していくという本委員会設置の主旨が説明された。委員会では、継続的な地震観測の実施と、その観測記録及び検討成果を公開することの意義と重要性が認識された。

(2) 今後の検討計画

検討項目である地震観測・GPS観測、物理探査及び地震観測モニタリングシステムの構築について、事務局より検討の背景・目的及びその計画の説明が行われた。委員会では、観測記録の利用法について、地震波干渉法^{※1}を利用した地下構造探査等、幅広く検討を行う必要性が認識された。

(3) 長岡平野西縁断層帯の地質調査

当社が2007年新潟県中越沖地震後に実施した長岡平野西縁断層帯における地質調査結果^{※2}について紹介を行った。委員会では、震源断層のモデリングにおいて地下深部の地質構造を精度良く把握することの重要性が認識された。

(4) 緊急地震速報の精度と課題

緊急地震速報の現状、予測精度と今後の課題について紹介があった。委員会では、より地域に密着した情報伝達の必要性が認識された。

※1：地震波干渉法

任意の2地点で観測された常時微動の記録を用いて、一方を震源、他方を観測点として波形を合成する手法。人工震源を用いずに地下構造のイメージングやモニタリングを可能にする手法として期待されている。

※2：本資料は、本社及び柏崎刈羽原子力発電所カムフィー内の原子力情報コーナーで公開されている資料の「陸域の地質・地質構造」になります。原子力情報コーナーの場所は、下記 URL をご参照ください。

<http://www.tepco.co.jp/nu/torikumi/nucleardata/index-j.html>

以 上